



すべてのステークホルダーの
皆さまとともに成長する
企業グループをめざしてまいります。

三菱地所株式会社 取締役社長

杉山 博寿

「持続可能な開発・発展」を重視して 環境への取り組みのトップランナーをめざす

三菱地所グループは、ビル事業、住宅事業をはじめ、設計監理、ホテル、不動産サービスなど多岐にわたる事業を展開しています。こうした事業を発展させていく上で最も重要なことは、持続可能な開発・発展(Sustainable Development)を実践していくことです。

そうした認識をもとに、1998年から開始した丸の内再構築プロジェクトでは、一貫して環境共生型のまちづくりを追求してきました。また、2011年度からは中長期経営計画「BREAKTHROUGH2020」の柱の一つに「Eco-conscious」を位置づけ、「三菱地所グループ長期環境ビジョン」のもと、再生可能エネルギーの活用や環境共生技術の研究など「各事業で先進的な取り組みを推進し、それぞれの業界でトップランナーをめざす」ことを社内外に表明しました。

具体例としては、2012年に、省エネと快適性の両立をめざして取り組んできた実証オフィスでの技術成果を実用化する「(仮称)茅場町計画」に着手しました。テナントのお客さまとのやりとりの中で成果を確認し、大規模ビルにもフィードバックしてオフィス標準をリードしていければと思います。また、住宅事業においても、太陽光発電や太陽熱給湯をマンションで積極的に活用しているほか、戸建住宅でもゼロエネルギー住宅の取り組みを推進しています。

さらに、5年後、10年後を視野に入れ、大手町・丸の内・有楽町地区での「都心型スマートシティ」の実現に向け、地域一体でのエネルギー利用のさらなる効率化と自立化をめざした検討を進めています。

安心・安全を基盤として、街の魅力をさらに高め ステークホルダーとともに成長していく

私は、CSR(企業の社会的責任)は、コンプライアンスやガバナンスの取り組みであるとともに、環境共生の取り組みをはじめとする社会的課題をお客さまや地域のステークホルダーとともに解決しながら成長する価値共創の取り組みであると考えています。

そうした観点から、当社グループは、東日本大震災以降、「まち・くらしの安心・安全」を改めて強化する方針を打ち出し、BCP(事業継続計画)の強化に努めるだけでなく、行政や丸の内エリアの企業とともに地域防災や環境対策を推進する「まちづくりガイドライン」の改定作業や「大手町・丸の内・有楽町BCD(Business Continuity District: 事業継続基盤強化地区)計画」の立案などに積極的に関わっています。

また、丸の内再構築の一環として2001年度から、世界で最もインタラクションが活発な街をめざして取り組んでいる「丸の内街ブランド戦略」を深化させ、2012年からはビジネスセンター機能のさらなる充実、街のグローバル化対応

を進めています。これまで新事業や次世代人材の創造拠点の運営、保育所誘致を進めてきましたが、外国人旅行者のための総合観光案内所の誘致に続き、外国人向けの医療施設、金融教育・交流センターの整備などを推進しています。これらの取り組みを通じて、街に新たなインタラクションが生まれ、時代にふさわしい多様な価値が創出されていくことを期待しています。

こうした事業活動は、海外企業や人を呼び込み、グローバルな都市間競争の中で東京の存在感を高め、ひいては日本経済の活性化に貢献することにつながっています。私たちはすべての事業分野においてお客さまや地域のステークホルダーとともに街の将来像をイメージしながら成長し、価値あるまちづくりをリードしていく使命があると考えています。

人と企業のつながりをつくる、 まちづくりの会社らしい社会貢献を

ステークホルダーとともに継続的に成長していくという考え方は、社会貢献活動においても同様です。

当社が2008年からNPO法人「えがおつなげて」と連携して山梨県北杜市で実施している都市農山村交流「空と土プロジェクト」では、当初から各事業グループの社員に参加してもらい、各事業のバリューチェーンに活動を組み込むことをめざしてきました。例えば、当社グループの注文住宅や丸の内のレストランでは、山梨県産の木材や食材を積極的に活用しています。この考え方は、当社グループの東日本大震災復興支援策として、丸の内のレストランシェフとともに東北エリアの食材を活用し、東北の食のブランドの再生をめざす「Rebirth東北フードプロジェクト」に発展しています。このように、本業につながっているCSR活動は、間違いなく長続きすると確信しています。

最近、多様なステークホルダーと共有できる新たな共通価値の創造(CSV:Creating Shared Value)の必要性が提唱されていますが、当社の社会貢献活動はまさにこの方向を向いていると思います。

これからも活動に多くの社員が参加することで、当社グループらしい新たな取り組み——人と人、企業と企業のつながり

をつくり、長続きする、まちづくりの会社らしい社会貢献活動が生まれるのではないかと期待しています。

グループ全体で人財を育成し、 基本使命を追求していく

環境と安心・安全に配慮した魅力あふれるまちづくりも社会貢献活動も、ベースとなるのは、グループの社員一人ひとりがステークホルダーの目線に立ち、相手の意図や想いを汲み取り、「必要な価値とは何か」「自分に何ができるか」を考えることです。当社グループのコーポレート・ブランドスローガン「人を、想う力。街を、想う力。」はまさにこのことを表現しています。また、考えを実行していくためには、当社グループのバリューチェーンが持つ多種多様なノウハウを、会社や事業グループの枠を超えた“As One Team”として発揮していく必要があります。

2011年度から三菱地所グループの社内表彰制度として「ひとまち大賞」を創設しました。これは、グループ社員がチームワークを発揮して取り組んでいる日常の小さな工夫やチャレンジを表彰する制度で、「人を想う」とは何か、「街を想う」とは何かを“見える化”していく取り組みです。グループ全体で480件の応募があり、私はそのエネルギーに、街に必要な多様な価値をつくっていく上での大きな底力を感じました。グッドプラクティスをグループ全体で共有しながら、一体感を醸成し、グループ各社がそれぞれの事業で業界No.1をめざす推進力になると思います。

さらに、三菱地所グループ行動憲章、行動指針にある、人権と多様な価値観、文化を尊重することもますます重要となります。人権研修や人権講演会の開催、公正な採用・配属、女性の活用・登用、障がい者雇用などの取り組みを継続的に進めていきます。

このような取り組みにより、ステークホルダーとともに成長する人財、“As One Team”を支え、率いる人財を育成することが、経営者として最大の務めだと考えています。これからもグループ全体で人財を育成し、三菱地所グループ基本使命「住み・働き・憩う方々に満足いただける、地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献」することを追求してまいります。